

都道府県・ 指定都市番号	27	都道府県・ 指定都市名	大阪府	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○協働的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）が「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導計画及び指導方法の研究</p>				
学校名（生徒数）	<p><small>ふりがな</small> 学校名（生徒数） <small>おおさかふりつひがしもずこうとうがっこう</small> 大阪府立東百舌鳥高等学校（908 人）</p>				
所在地（電話番号）	〒599-8234 大阪府堺市中区土塔町 2377-5 (072-235-3781)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://www2.osaka-c.ed.jp/higashimozu/				
研究のキーワード	「探究学習」「主体性」「協調性」「マインドセット」「形成的評価」				
研究結果のポイント	<p>○ 「学びに向かう探究学習Ⅰ」におけるカリキュラム・マネジメントの確立</p> <p>○ 選んだテーマを基に「問題提起・問題展開・解決提案・まとめ」に整理された論理的なプレゼンテーションを通じた主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>○ 「仲間を支援、安心できる関係性を作る力（ピア・マインドセット）の育成 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」結果の分析</p> <p>○ 学校教育目標（「学校経営計画」中期的目標の2『21世紀型スキル』発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する）の実践による「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成</p> <p>● キャリア教育を「探究」の切り口で見直し、「探究」の過程に位置付ける取組み</p> <p>● 「学びに向かう探究学習」における、「ピア・マインドセット」を育むことで「グループの中で、他人と協力をして問題を解決する」力を育てることができるといふ仮説の検証 生徒一人一人の多様な学びを形成的に評価するための研究・開発</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

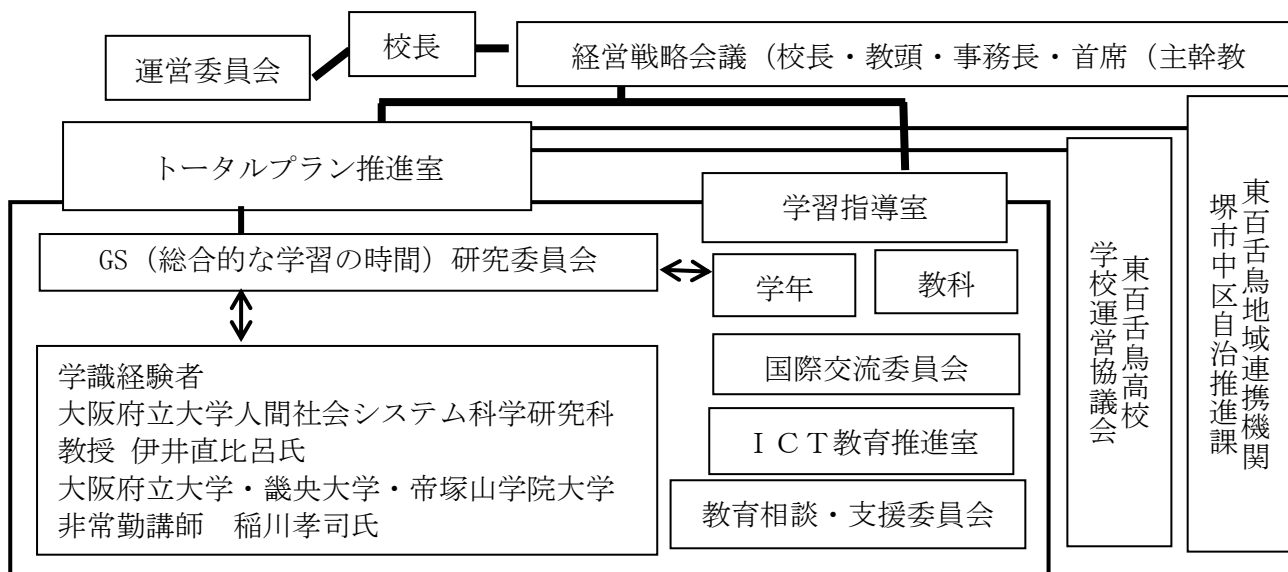
「学びに向かう探究学習」の研究・開発及び評価
～ピア・マインドセットをもち、SDGs に取り組む探究学習～

(2) 研究主題設定の理由

本校は、生徒の学力層が大阪府のボリュームゾーンに位置する、多様な進路を保障してきた公立普通科高校である。「ピア・サポート活動」を通して互いに支え励ましながら成長できる生徒、ICTを活用し自分の言葉で考えを表現できる生徒、地域に信頼される社会的貢献ができる生徒を育成することを目指してきた。しかし、グローバル化が進展し、社会や生活が大きく変わっていく「超スマート社会（Society5.0）」を生徒たちが自律的に生き抜くためには、「キャリア発達を促す進路実現」や「知識のみにとらわれない学びの実現」に課題を感じている。

このため、「学びに向かう探究学習」を推進したいと考えた。学びに向かう探究学習とは、国連が採択した「持続可能な開発目標」である SDGs を基に、生徒が興味のある分野を深く調べ、仮説を立て、検証し、意見としてまとめて表現する学習活動のことをさす。これらの学びを通じて、SDGs を自分の課題として捉え、目標達成のために他者と協働し、自己の進路をキャリアとして捉えられる生徒集団の育成を目指すことを研究主題として設定した。

(3) 研究体制



トータルプラン推進室が「総合的な学習の時間」の全体計画を立案し、それに基づいて、学識経験者の意見も取り入れながら、GS（総合的な学習の時間）研究委員会で実施計画を作成、HR 担任及び副担任等が分担・協力して実践を行う。また、トータルプラン推進室が「教科連携プログラム」、形成的評価法の研究開発、教員研修、成果の公表を行う。

(4) 1年目の主な取組

○印は発表または教員研修

取組項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①「ピア・マインドセットの醸成」の実施	→											→	
②「SDGsに基づく関心領域の発見」の実施				→			○	○	→				
③教科連携プログラム ①情報の科学「プレゼン大会」 ②現代社会・情報の科学「関連領域の学習とグループ発表準備」							○	→					
④形成的評価「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」							→	→					
⑤主体性評価 教員研修「理論編」「実践編」								○	○	→			

平成30年度	4月	・研究計画・年間指導計画の立案・共有（教職員全員）
	5月～6月	①「ピア・マインドセットの醸成」の実施（グループワーク，協議・発表）
	7月～9月	②「SDGsに基づいた関心領域の発見」の実施
	10月	・自分の関心領域から進路を考える（調べる・検証する・まとめる・発表する） ③「教科連携プログラム」（情報科・公民科） ・情報の科学「プレゼン大会」（「私のオススメ」をテーマにプレゼンテーション） ④ 形成的評価「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」の実施・分析

平成 30 年 度	11月	2	「外務省高校講座」(全体講演・座談会) ・「オリンピックの時、どうする?海外からのお客さんが困ることを解決しよう」 (グループワーク・調べる・まとめる・発表する・相互評価する)
		3	「関連領域の学習とグループ発表準備」(情報の科学・現代社会)
		4	形成的評価「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」の実施・分析
		5	主体性評価教員研修「理論編」(全員研修2時間・コアメンバー研修1時間)
	12月	5	主体性評価教員研修「実践編」(全員研修2時間・コアメンバー研修1時間)
	1月		・2年次研究計画・年間指導計画の企画・立案・共有(教職員全員)
		2	大阪府立大学の留学生との交流会
	2月	2	「SDGs への理解を深める」
		1	「身近な問題を考え直す! デートDV 予防」(ロールプレイ・協議・発表)
	3月	5	SDGs に係る教員研修 ・年間の反省と次年度「学びに向かう探究学習Ⅱ」の研究計画の作成

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- 1 「ピア・マインドセットの醸成」
「クラブ活動に参加しよう!」・「ピアホームルーム」・「自転車通学マナーを考える!」
「身近な問題を考え直す! デートDV 予防」
- 2 「SDGs に基づいた関心領域の発見」
外務省「高校講座」・「オリンピックの時、どうする? 海外からのお客さんが困ることを解決しよう」・「自分の関心領域から進路を考える!」・大阪府立大学留学生との交流会・「SDGs への理解を深める」
- 3 教科連携プログラム
情報の科学「プレゼン大会」・現代社会・情報の科学「関連領域の学習とグループ発表準備」
- 4 形成的評価「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」
- 5 主体性評価 教員研修「理論編」「実践編」

(2) 具体的な研究活動

- 1 グループで、中学校時代のクラブ活動で「楽しかったこと」「しんどかったこと」・「東百舌鳥高校で私がやってみたいこと」・「なぜ自転車についてのルールがあるのか?」等をテーマにマインドマップを書いたり、高校生の間でよくありがちな事象についてロールプレイ行ったりするなどの活動を通して意見を出し合い、発表し、ルーブリックで相互評価した。
- 2 外務省「高校講座」(現役外交官による国際理解や外交官の職務についての講演会)を踏まえ、オリンピックの時、海外からのお客さんが困りそうなことを、設定した5つのテーマに関連する様々な問題のなかから、グループで解決するために取り組むものを選び、「問題提起・問題展開・解決提案・まとめ」の役割分担で探究を進めた。クラス発表と各クラス代表の全体発表会でプレゼンテーションを行った。1月には大阪府立大学の留学生を各学級に招き、日本での生活に困ったこと、その解決策等について交流を深めた。2月に2年次の探究学習に向けてSDGs への理解を深めるワークショップを行う。
卒業生講演会・大学見学とそのレポート発表を通して、自分の興味・関心のある分野や「なりたい自分」を見付け、実現のための課題を発見し、追究する態度を養った。
- 3 自分自身を見つめなおし、自分の興味・関心について改めて考え、深めていくため、「私のオススメ」をテーマにプレゼンテーションを行った。関連領域(「日本の普通・世界の普通」に関連する内容)の学習とグループ発表準備を行った。
- 4 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」(10/9・11/1・11/29)により、生徒の変容を分析した。関西学院大学高等教育推進センター 専任講師 時任隼平氏に、探究学習におけるマインドセットの相関関係及び主体性評価の方法等の指導・助言を受ける。

- 5 主体性評価 教員研修「理論編」「実践編」、3月にSDGsに係る教員研修を予定。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 「学びに向かう探究学習Ⅰ」の「ピア・マインドセットの醸成」では、「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」結果から、海外の人々への理解、他者との関係性、コミュニケーションや他者との理解や共生に関して非常に前向きな傾向がみられることにより、グループによる探究学習で、目標達成のため他者と協働的に学び合う力が育まれていることが伺えた。
- 「SDGsに基づいた関心領域の発見」の「オリンピックの時、どうする？ 海外からのお客さんが困ることを解決しよう」の単元では、外務省「高校講座」の学びを通じて、「異文化と生きる」ために、多様性を「①知ること②尊重すること③決めつけないこと」に気付くことで、生徒の意識を世界に広げ、自分の「常識」を疑い、考えの「多様性」に気付かせる学びが深まった。選択したテーマを基に、グループでの探究に取り組み、理由や根拠を示し「自分たちにできそうなポイント・問題解決の糸口」についての提案・提言につながった。
- 「学びに向かう探究学習Ⅰ」の「SDGsに基づいた関心領域の発見」では、教科連携プログラムでカリキュラム・マネジメントを確立させながら取組みを進めることができた。特に、情報の科学「プレゼン大会」の単元では、課題の設定及びまとめ・表現に対する学びを深めることができた。
- 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」結果から、地域とグローバルのよい市民であること・人生とキャリア発達の項目に関して非常に前向きな傾向がみられることにより、「学びに向かう探究学習」を通して、生徒の資質・能力に、学校教育目標（「学校経営計画」中期的目標の2）に掲げる「21世紀型スキル」発現の機会が創りだされていることが伺えた。
- 実社会や実生活と自己の在り方生き方を考えながら、自律的に課題を立て探究に取り組む側面が弱かったので、キャリア教育を「探究」の切り口で見直して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指していく。
- 「学びに向かう探究学習」において、【コンピテンシーとして「ピア・マインドセット」を育むことで「グループの中で、他人と協力をして問題を解決する」力を育てることができる】という仮説の検証を行う。そのためにも、「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」を始め形成的評価法の研究・開発に取り組む。さらに、生徒一人一人の多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。
- 新学習指導要領に沿って、探究の過程を充実するために、総合的な探究の時間の全体計画、関連単元配列表、単元構想図及び評価・支援計画表を作成し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。

4 今後の取組

2年次「学びに向かう探究学習Ⅱ」では、「関心領域を掘り下げる」ことと「生き方としてのピア・マインドセットのあり方」をテーマとする。「関心領域」に関しては、2年次より選択する5つの専門コース（文系アドバンス・理系・看護医療・情報デザイン・文系一般）に関連させる。

SDGsにおける「理想と現実」のギャップから見えてくる疑問や問題点を、情報収集することで洗い出し、専門コースにおける進路や自己の在り方生き方を考えながら、目標達成のための「仮説」を設定する。仮説検証のための情報分析を行い、仮説に対する結論・判断・提言等を成果物としてまとめ、ポスターセッション形式でプレゼンテーションを行う。また、情報収集をする過程で、異文化接触の機会を設け、「背景が異なる人との安心できる関係」について考えさせることで、生き方としてのピア・マインドセットのあり方について考えさせる。

本研究をすすめるに当たり、生徒の評価をどのように行うかも重要な研究内容の一つである。観点別評価を行い、「ピア・マインドセット」や「学びに向かう力」などの評価規準を作り、これらの力がどの程度身についたのかについて評価を行う。また、これらの評価規準の妥当性についても検討することで、総合的な学習（探究）の時間の評価方法の確立をめざす。研究の最後には、この取組自体の評価についても行う。生徒の「ものの見方・考え方」がどのように深化したのか、探究学習が学びに向かう力につながったのかといった視点でアンケートなどを基に検証する。